

若い仲間たちとともに、19春闘を職場から創造的につくり出そう！ **6**

**官製春闘に陰り！ベア前年割れ！  
 賃上げは労使の議論によって決定するものだ！**

「相場役」をつとめてきたトヨタが前年実績を下回る。ベアは非公表！

主要企業のベア妥結状況

業界	社名	要求額	回答	前年回答
自動車	トヨタ自動車	非公表	非公表	1300円超
	日産自動車	3000円	3000円	3000円
	ホンダ	3000円	1400円	1700円
電機	日立製作所	3000円	1000円	1500円
	パナソニック	3000円	1000円	1500円
重機	三菱重工	3500円	1500円	1500円

**19春闘**  
 2019年春闘は13日、主要企業の集中回答目を迎えた。米中貿易摩擦の激化などに伴う日本経済の先行き懸念を背景に、例年以上に厳しい労使交渉が続ぎ、トヨタ自動車は最終攻防を集中回答目当日に持ち越す異例の展開となった。基本給を底上げするベースアップ(ベア)を6年連続で実施する企業は多いが、妥結額は前年割れが相次いだ。「小倉祥徳、松本尚也、柳沢亮」

午前10時半ごろから各企業の回答結果がホワイトボードに書き込まれた。例年、春闘の相場形成のけん引役となってきた自動車労組は、ベア額の統一要求を見送った。トヨタ労組はベアの要求水準を明らかにせず、定期昇給を含め組合員1人平均月1万2000円の賃上げを求めた。

2019/03/13 毎日新聞

## ベア前年割れ相次ぐ 集中回答日 先行き懸念影響

集中回答日  
 自動車や電機といった製造業大手の経営側が労働組合に春闘の回答内容を一言に伝える日。産業界の裾野が広く、相場形成をけん引する自動車や電機は、春闘全体では早期に当たる3月中旬までに設定される。下旬以降に妥結を迎える非製造業や中小企業の労使交渉に影響を及ぼす可能性があり、どの程度の賃上げが実現するかが注目を集める。

日産自動車やホンダは前年と同額のベア3000円を要求。日産は2年連続でベアを満額回答した。一時金(5・7カ月分)も7年連続の満額回答だった。足元の事業環境は厳しいが、カルロス・ゴーン前会長の事件で経営が混乱する中、従業員への士気を高める狙いもあるとみられる。

ホンダは前年を3000円下回るベア1400円で決着した。一時金は6・3カ月分の満額回答。18年の中国の新車販売台数が前年割れに比べ弱まっていた。

日立製作所やパナソニックなどの電機大手の労組は統一要求を続け、ベア3000円を要求。前年を5000円下回る月10000円で妥結した。電子部品などで中国向け輸出が多いパナソニックや三菱電機が業績見通しを下方修正するなど先行き懸念が強まっている。

今春闘で経団連は政府が旗振り役となる官製春闘からの脱却を目指しており、政権からの圧力も前回には比べ弱まっていた。

### JR西労、西日本会社より回答受ける！

- ベア 一律 1,000 円
- 年間臨給 5.48ヶ月分  
 ※夏季 2.74、期末 2.74
- 2019 年度プロフェッショナル採用(大卒)新規採用者 初任給調整手当 3,000 円の適用
- 2018 年度プロフェッショナル採用(大卒)新規採用者 初任給調整手当 1,000 円の適用
- 通勤手当  
 特急列車による通勤対象区間に、九州地方で営業する各鉄道会社区間を加える。

本日ヤマ場！19春闘勝利に向けて職場からたたかいをつくり出そう！

